

ソバ（蕎麦）のカルテック栽培

8月播種－11月収穫

品種：（遅蒔き型）宮崎大粒、信州大ソバ

（10アール当り）

項目	時期・方法	資材	
土作り	なるべく早く (播種20日前迄に)	[例A] 痩せた土での土作り	[例B] 肥沃な地力作り
		ラクト・バチルス 600グラム 米ヌカ 90kg 硫安 10kg 硫酸カリ 10kg	ラクト・バチルス 600グラム 堆厩肥 500kg前後 硫安 10kg (～20kg) <small>(厩肥が少なければ 硫酸カリ 10kg)</small> <small>※上記の3倍量投入の例もあります。</small>
※ソバはごく早期（第1本葉の展開時）から花芽を分化し、花を着けて、生殖生長にかかります。また過繁茂・倒伏の危険もあるので、無機チッソを過剰にしないよう注意します。しかし安定・多収にはシッカリした地力が必要です。 ※播種時以降、栽培中には必ず 土壌EC：0.2以下にします。通常の施肥では困難ですが、ラクト・バチルスが働いている土壌は 必ずそうなります。			
整地時	整地時に全面散布 (または土作り時に)	カルテックCa粒状 (または 畑のカルシウム) 30～40kg <small>※土壌pHによって、どちらかを選択してください。</small> <small>水田転換地では、土壌が酸性の例が多いので 畑のカルシウムを。</small> <small>※カルシウムを効かせて 蕾・花を確実に強く付けます。</small>	

(↑ 以上：必須)

(↓ 以下：適宜選択・状態による調節)

播種後	播種後の灌水時、 ないし出芽期	濃縮酵素液 500倍灌水、または10アール1～2リットルを倍率適宜で灌水 <small>※発根と初期生長を旺盛にしますが、チッソ過多・徒長にはしません。</small> <small>※根の強い体質を作っておき、以後 状態によって繰返し(7～15日ごと)。</small>
初期	本葉の展開(緑色化)の 2～3日後、ないし 第1花の着蕾期	カルテックCa液状 500倍 葉面散布 (土まで染込むようにタップリと) <small>※葉に厚みをつけ、充実した生育にし、花芽分化・着蕾・開花を促進します。</small> <small>※カルシウム豊富な体質を作り、以後 状態を見て繰返し(7～15日ごと)。</small>
カルシウムの追肥	(播種後1ヶ月頃) 開花始めから5日後頃	カルテックCa粒状 20kg (土壌pHが酸性の時は 畑のカルシウム) <small>※約10日後の開花最盛期に 花を揃って強くし、受精・結実を促し、果実を揃って成熟させ、脱粒を防ぎ、ソバ粉の品質・栄養価を向上させます。[生殖生長の促進] また草丈はこれ以上伸びすぎません。</small> なるべく肥沃な土作りと、このカルシウム追肥をお勧めします。
開花期の調節 (適宜)	出芽10日後：着蕾始め その10日後：開花始め その半月後：開花最盛期	① [葉面散布で調節] <small>生長が弱い・遅い、茎が細い、シオレ → 濃縮酵素液 500倍</small> <small>蕾・花が少ない、短柱花と長柱花が偏る → カルテックCa液状 500倍</small> ② [追肥で調節] <small>葉色が薄すぎる(葉中チッソ3.0%以下) → 硫安 10(～20)kg</small> <small>葉色が濃い(葉中チッソ濃度4.0%以上) → カルテックCa粒状 10kg</small>
開花盛期以降	開花最盛期以後 半月以内で開花終期、以後、結実期	開花最盛期以降、収穫までは 肥料的には 何もしないで下さい。